

行き交う人々を見つめ続けて100年



高浜港駅

“撮っておき” の たかはま

【第14回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

高浜港駅は、大正3年(1914)2月5日に三河鉄道の駅として開業し、昭和16年(1941)に名古屋鉄道との合併により現在の名鉄三河線の駅となり、今年で開通100周年を迎えた。

人々の交通手段としてだけでなく、かつては瓦や土管の輸送に貨物列車が走り、たかはまの産業発展の一翼を担っていた。1面2線のホームであったが、三河線の貨物営業の廃止により単線に。

駅舎の隣で、売店を開いていた小久保加代子さんは、「祖母・母・そして私の三代にわたり、70年間ほど営業しました。タバコ・郵便切手・パン・牛乳・菓子などのほかラーメン・かき氷などを出している時期もありました。朝早くからタバコがよく売れ、当時は自動販売機はないので、会話をしながらの手売り。お客さんが店内で列車を待っていて、列車がホームに入る警報器のカンカンという音とともにホームへ走る姿も。生まれたころは、馬が瓦を運んでいましたが、貨物列車により大量に運搬できるようになり、駅は荷積みの人でにぎやかでした。」と振り返る。

また、「父(小久保霞さん)は三河鉄道の車掌をしていた縁で売店の看板娘の母と結婚したんですよ。」とも。そんな思い出いっぱいのお店も平成12年に閉めて、建物を取り壊したため現在は更地となっている。時代の流れを駅舎南側の桜の木が眺めていたのだろうか。開業当時の面影を残している瓦葺き屋根の駅舎は、建て替えられ、今年度中に竣工予定である。

LELA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!

広報 **たかはま**

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ
〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。

VEGETABLE OIL INK 広報たかはまは植物油インキを使用しています。